

(1) 停車場の狀況

京都電鐵の叡山空中ケーブルカーに就いて

昨年十月開通した京都叡山の旅客用索道は登山ケーブルと延暦寺間の距離短縮の爲に架設されたものである。此の索道は京都電燈株式會社の經營にかゝり、叡山電鐵登山ケーブル四明嶽驛より左へ3丁の地點、高祖谷驛を起點とし京都府滋賀縣の境界に接する延暦寺驛を終點とする全長642米の釣瓶式連轉多線式索道で、途中に鐵筋混泥土高12米の支柱が1基あり定員20名の搬器が2臺毎秒3米の速度で交互に旅客を輸送するのである。

此の装置は製造者たる伊太利セリツチ・タンファニー會社が特許を有するもので、索條は支索(Carrying Rope 徑2吋) 曳索(Traction Rope 徑3/4吋) 制動索(Brake Rope 徑7/8吋)の鋼索と、他に搬器と機械室相互間の通信線1條があつて曳索の破斷に依る危険や連轉の

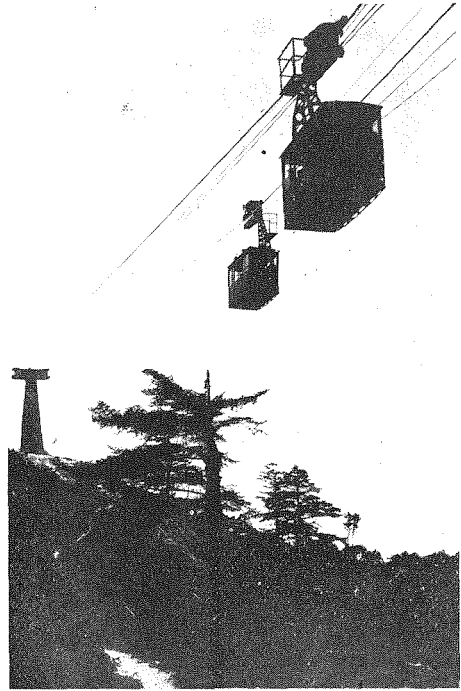
休止等は完全に防止される事になつてゐる。又各鋼索は寒暑の其の他の理由に依つて生ずる張度(Tension)の差を常に一定ならしむる爲、すべてCounter-weightに依つて緊張されてゐる。

常用原動機は49馬力の誘導電動機で、豫備として35馬力の瓦斯倫發動機が1臺備付けてある。制動装置は手働、自動、電磁の3種があり、搬器内に備えられた制動機は、鋼索異常の場合自動的に又は車掌の手働に依つて搬器を安全に制動索に連結し、起動所内の電磁制動機は停電、過負荷、速度過昇、捲き過ぎ、その他の事故の生じた場合自動的又は車掌の手働に依つて、原動機を停止せしめるのである。又曳索用制動機は手働式で平常運轉中の停車に際し曳索用原動機を停止せしめ、又鋼索

異常の場合自動的に或は車掌の手働に依つて制動索用原動機を制動し搬器に對する衝擊を緩和する爲の自動手働共用制動機等も装置されてゐて、少しの危険も豫想されない設備である。

此の工事はフレザー商會が請負ひ施工したものであるが、開通したのが丁度京都に於て御即位の盛儀が行はせられる當時だつたので秩父宮兩殿下を初め各宮殿下も御試乗あらせられたこの事である。

尙此の索道 (Areal Rope-way) は従來山岳地方の交通機關として採用されてゐたケーブルカーに比較し、輸送力の點で多少の劣る處あつても、廣大な敷地を要しない事、抵木、隧道、橋梁等を建設する必要なく従つて多額の建設費を要しない事、又それ等の工事のために自然の風景を損ずる憂ひもなく、壯大な景色を高空から一日に眺め得る事なき後者に勝る幾多の利點があるので、我が國の如き地形の國では、今後益々此の種の交通機關が發達する事になるであらう。



(2) 空中に於ける搬器交錯の狀況

(3) 索條架設工事中(支柱高約40尺)

